

第9回 高崎学検定

令和3年10月23日（土）



—— 問題と解説 ——

問 1

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

烏川の源流は、高崎市と【ア】の境界にある鼻曲山です。烏川は市のほぼ中央を流れ、下豊岡町付近で【イ】と合流し、新町を通過して利根川と合流します。

- ア (1) 東吾妻町 (2) 安中市
(3) 渋川市 (4) 長野原町、長野県軽井沢町

〔正解 4〕

- イ (1) 碓氷川 (2) 鎗川 (3) 神流川 (4) 温井川

〔正解 1〕

●解説

烏川は古代から高崎の人々の暮らしに深く関わり、暮らしを支えてきました。源は長野県との県境の高崎で、支流を含めると西毛地域のほぼ全般を流域としています。烏川に架かる和田橋の近くに「利根川合流点より18km」と標識があります。

問 2

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

【ア】は2万数千年前に大噴火しました。この時に山体が大崩落し、大規模な泥流（前橋泥流）が発生しました。高崎市役所付近より下流の烏川河床には、この泥流で運ばれた幅約5メートルの巨岩が点在しています。これらの巨岩は佐野橋の下流の「赤石」、一本松橋上流の「川籠石」などが知られているほか、【イ】は烏川にかかる橋の名前の由来になった岩石です。

- ア (1) 赤城山 (2) 浅間山 (3) 谷川岳 (4) 妙義山

〔正解 2〕

- イ (1) 大石 (2) 神石 (3) 聖石 (4) 仏石

〔正解 3〕

●解説

烏川の河床には、2万数千年前の浅間山の大噴火に伴う山体大崩落による大規模な泥流で運ばれた巨岩が点在しています。こうした巨岩を押し流す程の泥流だったことから、この泥流で形成された台地は広大で、東縁は前橋市を流れる広瀬川で西縁は烏川までがその範囲になります。この台地は前橋台地と呼ばれ、そのうちの西域は特に高崎台地と呼ばれることもあります。

問3

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

榛名山は、5世紀末～6世紀初頭頃と6世紀前半に2回の大噴火を起こしました。最初の大噴火では、山麓東部一帯に高温の【ア】が流れ下り、次の噴火では北東麓地域に大量の軽石が降り注ぎました。

火山噴出物の下には、当時の遺跡群（豪族居館跡・古墳・祭祀跡・畑跡・【イ】など）が広範囲に残されています。その遺跡群の研究は、日本の古墳時代社会の解明に大きな役割を果たしており、研究成果の一端は井出町のかみつけの里博物館の展示で知ることができます。

ア（1）溶岩 （2）火砕流 （3）土石流 （4）温水

〔正解 2〕

イ（1）神社跡 （2）寺院跡 （3）城郭跡 （4）水田跡

〔正解 4〕

●解説

古墳時代に発生した榛名山の大噴火は、特に渋川地域に大きな被害をもたらしました。同市の金井東裏遺跡からは火砕流で死亡した甲冑を着た男性遺体などが、黒井峯遺跡からは軽石に深く埋没した集落跡が発見されています。この時の噴火でできた溶岩ドームが二ツ岳です。なお、榛名山の火山噴出物は遠く東北地方南部にまで到達しています。

問 4

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

烏川上流の倉渚町水沼の旧水沼小学校校庭には、【ア】時代後期の遺跡があります。

遺跡は、1944～1968(昭和19～43)年まで7回にわたり、発掘調査が行われ、8軒の竪穴住居跡から土器などが出土しました。特に2号住居跡は一辺約4メートル四方の竪穴住居で、甕・壺・高坏かめ つぼ たかつきなどが出土し、3号住居跡からは鉄の【イ】や砥石も出土しました。烏川流域の原始時代を知る上で貴重な遺跡で、市指定史跡となっています。

ア (1) 縄文 (2) 弥生 (3) 古墳 (4) 平安

〔正解 2〕

イ (1) 太刀たち (2) 刀子とうす (3) 鏃やじり (4) 槍やり

〔正解 3〕

●解説

烏川上流の倉渚町水沼の元水沼小学校校庭に弥生時代後期の遺跡があります。...

1944～1968 (昭和19～43)年まで、7回にわたり発掘調査が実施され8軒の竪穴住居跡から樽式土器が多数出土しました。特に2号住居址は一辺約4メートル四方の竪穴住居で、甕・壺・高坏などが出土し、3号住居址からは鉄の鏃や砥石も出土しました。...

烏川流域の原始時代を知る上で貴重な遺跡であることから1982(昭和57)年に市指定史跡「水沼弥生時代住居跡」になりました。...

問 5

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

元島名町の井野川北岸の段丘上には、墳丘長95メートルの元島名將軍塚古墳（市指定史跡）があります。この古墳の形は【ア】墳で4世紀初頭に造られました。

古墳周囲の堀からは、葬礼に用いられた土器がたくさん出土しましたが、それらは【イ】地方で用いられた土器と酷似していました。このため、3世紀に【イ】地方から移住した集団が、高崎地域の低湿地を開拓し、その経済力を背景に当地域で最初の大型古墳である元島名將軍塚古墳を築造したと推定されます。

ア（1）円 （2）前方後円 （3）前方後方 （4）方

〔正解 3〕

イ（1）東北 （2）近畿 （3）北陸 （4）東海

〔正解 4〕

●解説

元島名將軍塚古墳の前方後方墳という形は東海地方を起源とするものです。古墳から出土した土器も東海系統であることから、東海地方から移住した集団がこの古墳を築いたと推定されます。近年の研究で、古墳時代に先立つ弥生時代中期から後期にかけては、多雨で寒冷な気候が続いたことが分かってきました。環境変動により濃尾平野などで農業経営ができなくなった集団が、関東地方に移動してきた可能性が指摘されています。

問 6

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

冷水町・引間町にある北谷遺跡^{きたやついせき}は、【ア】時代の豪族居館跡として著名であり、その重要性から【イ】に指定されています。二つの谷に挟まれた台地の南北を幅30メートルの堀で区画し、内側に90メートル四方の屋敷地を備えています。屋敷地の外側の斜面には石を葺き、内部には大型の建物が営まれていました。

【ア】時代の豪族居館跡は全国的にも珍しいものですが、高崎市には同じ種類の遺跡として【ウ】遺跡が知られています。北谷遺跡と【ウ】遺跡は、造られた時期が同じであるとともに、設計規格も酷似しており、5世紀後半に榛名山麓を治めた、同じ系統の豪族の居館跡と考えられます。

北谷遺跡は現在、高崎市によって、保存のための公有地化が進められています。

ア (1) 弥生 (2) 古墳 (3) 奈良 (4) 平安

〔正解 2〕

イ (1) 県史跡 (2) 国史跡 (3) 国重要文化財 (4) 市名勝

〔正解 2〕

ウ (1) 保渡田Ⅶ (2) 菅谷 (3) 三ツ寺Ⅰ (4) 西国分Ⅰ

〔正解 3〕

●解説

高崎市に所在する三ツ寺Ⅰ遺跡と北谷遺跡という二つの古墳時代の豪族居館は、いずれも榛名山麓の湧水地帯に造られました。館の構造をみると、濠に水を貯え、館内部には水の祭祀施設が設けられています。このことから、当時の豪族はこれらの館を構えることで農業用水をコントロールし、水田経営を大規模化したと考えられます。そして、農業の安定を神に祈り、人々を結集させるために、内部で水の祭祀を挙行了たのでしょう。

問 7

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

高崎地域における古代の有力氏族として物部氏が知られています。6世紀代の高崎地域の豪族が、ヤマト王権の重臣であった物部氏と結びつき、中央との関係を誇示するため、この地でも物部氏を名乗ったと考えられます。上野三碑の一つ【ア】碑には、祖先供養の参加者の一人として「物部君^{ものべのきみ}午足^{うまたり}」の名が刻まれています。また、矢中町からは「物部私印」と刻まれた8世紀の【イ】が出土しています。これらのことから、物部氏が、古代の高崎地域で広く勢力を誇ったことが分かります。

ア (1) 金井沢 (2) 多胡 (3) 山上 (4) 多賀城

〔正解 1〕

イ (1) 金印 (2) 鉄印 (3) 銅印 (4) 銀印

〔正解 3〕

●解説

6世紀のヤマト王権においては、物部氏と蘇我氏が勢力を競い、仏教の導入などをめぐって争いました。587年には戦いが勃発し、崇仏派である蘇我氏・厩戸王らが物部氏を滅ぼしました（丁未^{ていび}の乱^{らん}）。地方では、中央の物部氏と関係をもった勢力が「物部」を名乗っていましたが、それらは丁未の乱以後も地元で力を伸ばしていきます。高崎市吉井町矢田遺跡からは「物部郷長」と刻んだ平安時代の紡錘車（糸つむぎの道具）が出土し、物部氏が地域の有力者になっていたことが分かります。

問 8

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

倉賀野町にある【ア】本堂の北側には円墳があり、埋葬主体部は石棺式石室という形態で、7世紀末頃に造られたとされます。石室の壁に彫られた7体の仏像は鎌倉時代の作と推定され、秘仏として12年に一度だけ開帳されます。また、境内には覆屋に保護された2基の【イ】があり、梵字の彫り方などから南北朝時代以降のものと思われる。

ア (1) 安楽寺 (2) 九品寺 (3) 慈眼寺 (4) 徳昌寺

〔正解 1〕

イ (1) 板碑 (2) 五輪塔 (3) 重層碑 (4) 宝篋印塔

ほうきょういんとう

〔正解 1〕

●解説

倉賀野町の天台宗安楽寺には、本堂の北側に群馬県指定史跡の安楽寺古墳があります。形式は円墳、埋葬主体部は石棺式石室という珍しい形態で、凝灰岩（火山灰が堆積してできた岩石）の切石が使用され、南側に開口しています。その様子から7世紀末期頃に造られたとされています。石室内の三方の壁に彫られている7体の薬師如来像は当寺の御本尊で、秘仏として12年に1度、巳年に開帳されています。

また、境内には覆屋に保護された2基の板碑があり高崎市指定文化財になっています。

この板碑は将棋の駒形に加工された天引石（牛伏砂岩）に、梵字で阿弥陀三尊と天蓋（仏像上の笠状の仏具）と華瓶（花を飾る仏具）二つが彫られています。全体のつくりや梵字の彫り方などから南北朝時代以降の作と思われる。



安楽寺異形板碑（倉賀野町）

問 9

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

吉井町の常^{じょうぎょういん}行院は鎌倉時代開基と伝えられる寺で、【ア】時代に再建された観音堂が残ります。ここは「袂^{たもと}観音」とも呼ばれ信仰されています。境内には、鎌倉時代の板碑、堂の前には目通り2.3メートル、根元周囲2.5メートル、樹齢約600年の巨木で、人の形をした実を付ける暖地性の【イ】があります。この地が、中世から引き続いてきた霊場であることが分かります。この巨木は1995（平成7）年に県指定天然記念物となっています。

ア（1）戦国 （2）江戸 （3）明治 （4）大正

〔正解 2〕

イ（1）イヌマキ （2）コウヤマキ
（3）モミ （4）ラカンマキ

〔正解 4〕

●解説

吉井町の常行院は鎌倉時代開基と伝えられる寺で、現在江戸時代に再建された観音堂が残り、「袂観音」とも呼ばれ信仰されています。

境内には、鎌倉時代の板碑、堂の前には目通り2.3メートル、根元周囲2.5メートル、樹齢約600年のラカンマキの巨木があり中世からの霊場であることが分かります。

ラカンマキは暖地性の樹で、実を仏教界の聖者羅漢像に見立てて付された名と言われ、ここに植栽された理由が推測出来ます。このような巨木は県内でも珍しいことから1995（平成7）年に県指定天然記念物になりました。

問 10

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

阿久津町玄頂寺には総高123センチメートルの【ア】があります。この供養塔は、【イ】で、1343（康永2）年の紀年銘をもち、建立当初の姿が守られてきた市内最古のものです。この塔は型式の基準となる貴重なものです。

碑面には、「逆修□根塔念仏為□□□□□□康永二癸未十一月三日」とあり、生前にあらかじめ死後の冥福を祈って建立したことが分かります。

ア（1）板碑 （2）五輪塔 （3）宝篋印塔^{ほうきょういんとう} （4）無縫塔^{むほうとう}

〔正解 2〕

イ（1）石製 （2）銀製 （3）銅製 （4）木製

〔正解 1〕

●解説

阿久津町玄頂寺の康永二年銘の安山岩製五輪塔は、年号の刻まれた五輪塔では市内最古のものです。建立当初の姿が守られていると見られていてこの時代の型式基準となっています。

地輪には、「逆修□根塔念仏為す□□□□□□康永二癸未十一月三日」とあり、生前にあらかじめ死後の冥福を祈って建立したことが分かります。難読部分があることから、数通りの読みがありますが、今回は『新編高崎市史』資料編14 社寺 P479』によりました。

1994(平成6)年に市指定重要文化財になりました。

問 1 1

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

高崎市下室田町に建つ曹洞宗の【 ア 】は、ながのなりひさ長野業尚が1492（明応元）年に開基したと伝わり、長野氏の菩提所として業尚ほか7人の五輪塔が残されています。信州街道は高崎宿から烏川左岸の道筋室田道と右岸の道筋【 イ 】に分かれていました。下室田は、信州街道の宿場として栄え、幕末に一部が【 ウ 】領になったことから、水戸天狗党の通行に際し警固の人足が徴発され、また、同藩が編成した農兵隊に村民が歩兵として徴発されました。

- ア (1) 護国寺 (2) 長谷寺 (3) 長年寺 (4) 柳沢寺
〔正解 3〕
- イ (1) 神山道 (2) 十石道 (3) 本郷道 (4) 本宿道
〔正解 1〕
- ウ (1) 小幡藩 (2) 館林藩 (3) 沼田藩 (4) 吉井藩
〔正解 4〕

●解説

下室田町の名刹室田山長年寺は、同じく同町にあった鷹留城の城主長野業尚が曹洞宗の名刹雙林寺（渋川市中郷）の三世曇英慧応どんえいゑいおうを招請し開山したといわれます。長野氏の菩提寺となり、境内には長野氏累代7人の五輪塔の墓（高崎市指定史跡）があります。

江戸時代になると信州の米などの物資輸送と、榛名神社参拝や草津温泉への旅人の往来が盛んになり、高崎宿から二筋に別れた信州街道の一方である烏川左岸に行く室田道の下室田村は伝馬宿として栄えました。そのた



長年寺長野氏累代7人の五輪塔
(下室田町)

め、もう一方の烏川右岸を進む神谷道の
神山宿とは、継立などを巡って度々訴訟
が起きています。下室田村は高崎藩領に
始まり幕府領や旗本領を経て、江戸中期
から旗本と吉井藩の相給となります。そ
のため、村民は、幕末に水戸天狗党が吉井
を通行すると藩の警固人足として、また、
同藩が農兵隊を編成すると歩兵として徴
発されました。

問 1 2

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

【ア】城主、長野業政^{なりまさ}は武田氏の侵攻を、何度も防いだことで名高い武将です。しかしながら、業政自身が書き残した書状は1通も残っておらず、その名前は後の時代の江戸時代に編纂された系図や軍記物などの史料に基づいています。近年、1524(大永4)年頃の史料に【ア】城に長野【イ】という人物がいたことが明らかになり、その子が業政という説やこの人物と業政を同一人物とする見方も出ています。

ア (1) 鷹留 (2) 厩橋 (3) 箕輪 (4) 和田

〔正解 3〕

イ (1) 氏業^{うじなり} (2) 業平^{なりひら} (3) 業盛^{なりもり} (4) 方業^{まさなり}

〔正解 4〕

●解説

箕輪城は長野氏の居城で、その城主であった長野業政は箕輪城を拠点に武田信玄の西上野侵攻を何度も防いだことで知られています。長野氏の系図などでは、平安時代の在原業平が長野氏の祖とされます。長野氏は浜川を拠点に15世紀後半には上州一揆の旗頭になり、箕輪城を築城します。

さらに長野業政の頃には西上野を代表する勢力に成長しますが、業政は道半ばで亡くなり、後を継いだのが子の業盛(氏業)になります。

問 1 3

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

2016（平成28）年に復元された箕輪城跡郭馬出西虎口門^{かくうまだしにしこぐちもん}は、箕輪城の最後の城主【ア】の時代に使われた門です。

この門は近世的な礎石を使った2階建ての【イ】である一方、屋根は中世的な板葺きであり、全国的にみても城づくりの移行期の様相がわかる稀有な復元事例です。

- ア（1）井伊直政^{い い なおまさ} （2）滝川一益^{たきがわかずます}
（3）北条氏邦^{ほうじょううじくに} （4）酒井家次^{さかいいえつぐ}

〔正解 1〕

- イ（1）高麗門 （2）薬医門 （3）櫓門 （4）四脚門

〔正解 3〕

●解説

箕輪城跡郭馬出西虎口門は、発掘調査の成果や全国に現存している門を元にして、復元されました。瓦の出土がないことから、屋根は板葺きであり、8つの礎石が全て残り、その配置から2階建ての櫓門であることなどがわかりました。こうした特徴から、中世から近世への城づくりの過渡期の状況を知ることができる貴重な復元事例になっています。

問 1 4

次の文章のうち、【ア】～【エ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

井伊直政が箕輪から和田へ移城したときに移った寺院の一つに【ア】があります。この寺は、南北朝時代に足利尊氏・直義兄弟が、北海道と沖縄を除く日本全国に寺院と利生塔を建てた計画の一つです。明治初期には【イ】が置かれたことがあります。

高崎城大手門を正面にして西方を向いて建っていましたが、【ウ】年代に行われた道路拡幅の際に道路が境内を横切るため、本堂の建物を全て取壊し道路の南側に建て直しました。この道路はこの寺に因んで現在【エ】と呼ばれています。

ア (1) 安国寺 (2) 延養寺 (3) 清水寺 (4) 大信寺
〔正解 1〕

イ (1) 群馬県庁 (2) 群馬郡役所
(3) 高崎警察署 (4) 旧制高崎中学校
〔正解 1〕

ウ (1) 明治40 (2) 大正10
(3) 昭和10 (4) 昭和30
〔正解 4〕

エ (1) 観音通り (2) 三条通り
(3) 慈光通り (4) 白山通り
〔正解 3〕

●解説

通町にある慈光山常照院安国寺は、1339（歴応2）年に足利尊氏・直義兄弟が全国に一寺（安国寺）・一塔（利生塔）を設けた一つで、上野国群馬郡西明屋村に創建されました。箕輪城主となった井伊直政が高崎に城を築き移ると、当寺は大信寺や大雲寺などと高崎城下に移り、その後、直政が佐和山（彦根）へ転封になると、この三か寺の住職は彦根に供をして、宗安寺（安国寺改名）・大信寺・大雲寺を開山しています。高崎の安国寺は城の大手門から真っすぐ東の場所に4,000坪の敷地を与えられ、いざ戦となれば高崎城下の防衛と兵士が駐屯する役目がありました。

明治になると高崎は第一次群馬県庁がおかれ、熊谷県の設置に伴い一時支庁となりましたが、1876（明治9）年、第二次群馬県が成立すると再び県庁がおかれ、当寺が庁舎となりました。

1964（昭和39）年に高崎市都市計画道路拡幅事業により、大手前通りを東に延伸させるため境内地が割かれ、本堂は南側に建て直されました。新しい道路の両側には各種の店舗が立ち並び賑わいを呼び、通りは安国寺の山号に因み慈光通りの愛称で呼ばれています。



昭和初期の安国寺前の現慈光通り

問 1 5

次の文章のうち、【ア】～【エ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

1602（慶長7）年、総社藩主秋元長朝は、領内の新田開発のため【ア】から取水する天狗岩用水の開削を始め、高崎東部地域まで引水します（1604年完成）。

その翌年、幕府代官頭【イ】は、本用水を延伸・拡大する工事に着手します。彼は高崎東部から玉村地域までを灌漑^{かんがい}して【ウ】に水を落とし、用水を完成させました。

これらの事業に協力した地元の有力者のうち【エ】の墓は、関係文書とともに県指定史跡となっています。

ア（1）鳥川 （2）利根川 （3）井野川 （4）染谷川

〔正解 2〕

イ（1）酒井忠清^{さかいただきよ} （2）井伊直政^{い い なおまさ}
（3）大久保長安^{おおくぼちやうあん} （4）伊奈忠次^{い な ただつぐ}

〔正解 4〕

ウ (1) 烏川 (2) 利根川 (3) 井野川 (4) 染谷川

〔正解 1〕

エ (1) ^{さ の げん ざ えもん} 佐野源左衛門 (2) ^{わ だ よろくろう} 和田与六郎
(3) ^{あまた ぜん べ え} 天田善兵衛 (4) ^{え ばら げん ざ えもん} 江原源左衛門

〔正解 4〕

●解説

秋元氏は戦国時代には関東管領上杉憲政に仕え、武蔵国深谷（埼玉県深谷市）に住んだといえます。関ヶ原の戦いの後の1601（慶長6）年、秋元長朝は総社藩主となり、総社城築城のための堀の水と城下町の用水が必要となりました。

ところで同藩は、利根川右岸の榛名火山扇状地と高崎台地上に位置し、自然流水の小河川である八幡川・牛池川などの水で水田を潤すことは困難でした。そこで多量の水を有する利根川から引水するために、その上流の漆原村（白井藩、現吉岡町）に堰を設け、井野川に落水させる天狗岩用水（越中堀）を完成させました（1604年）。

その翌年、幕府代官頭の伊奈忠次は、本用水をさらに玉村地域に引水するため、延長拡張工事を実施します。これを滝川（備前堀）といい、用水の受益地は前橋藩領（約6800石）、幕府領（約4100石）に対し、高崎藩領（約1万2500石）は最大の利水地域でした。

また用水開削の協力者として、地元の有力者の存在がありました。牛込氏、江原氏、齋城氏、石原氏があげられます。

問 1 6

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

榛名白川などから引く農業用水で米作りをしていた高崎藩領11か村（上芝・下芝・保渡田・井出・楽間・行力・北新波・南新波・浜川・上小塙・上小島）は、常に水不足に悩んでいました。

そこで11か村は、宝永年間（1704～11）に【ア】から榛名白川へ水を引こうと考えて工事を始めますが途中で、断念します。

それから約220年後の1937（昭和12）年、かつての11か村を含む群馬郡10か町村（当時）は、榛名白川筋に貯水池を設置して灌漑するなど【イ】の計画を実施します。その一端として、1950（昭和25）年に【ウ】が完成しました。

ア（1）榛名湖 （2）利根川 （3）吾妻川 （4）三ツ寺堤

〔正解 1〕

イ（1）群馬用水 （2）大正用水
（3）群馬中部用水 （4）岡崎用水

〔正解 3〕

ウ（1）浜川貯水池 （2）鳴沢湖
（3）竹沼貯水池 （4）若田浄水場

〔正解 2〕

●解説

榛名白川から引水する祭戸堰・十二堰、もしくは溜池、天水などで水田を営んだ高崎藩領11か村は、長年水不足に苦しんでいました。

1707（宝永4）年11か村は榛名湖の水を榛名白川へ引こうと考え、当時管理していた榛名神社に申し出ます。一方、同湖から唯一流れ出る自然河川・沼尾川より灌漑する岡上用水を使っていた吾妻郡岡崎新田村はこれに反対しました（宝永の水論）。

翌年の幕府の裁許の結果、岡崎新田村の利水に影響を与えない条件で、湖水を榛名白川に引くことが許され、同7年から工事が始まりました。しかし高崎藩主大河内家の越後村上への転出、1717（享保2）年には4か村が幕府領、7か村が高崎藩領に分離、さらに上流・下流の村々の水争い（享保の水論）などの理由により工事は断念されました。

近代になり、当該地域の水不足を解消するため、①吾妻川からの引水、②榛名白川筋への貯水池（鳴沢湖）築造という「群馬中部用水」が計画さ

れます。結局②のみが、県営事業として関係10か村（車郷、箕輪、上郊、長野、六郷、中川、国府、堤ヶ岡、金古、清里）によって実施されます。

1938（昭和13）年から始まった工事は太平洋戦争をはさんで1950（昭和25）年に終わり、鳴沢湖が完成しました。更に1969（昭和44）年には群馬用水榛名幹線と結び、安定した農業用水の確保という宿題が達成されました。現在その受益地は約700ヘクタールに及んでいます。

問 17

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

江戸への材木の一大供給地の上州では、材木をいかだ筏に組んで下流に流す運送が盛んに行われました。日本森林学会の2020（令和2）年度の【ア】として選定された市重要文化財「川浦山御用木御伐出絵図」は、1833（天保4）年頃、江戸城修復に際し、川浦山（倉渕町川浦）から大量の【イ】を伐り出し、高崎付近で筏を組んでいたことが記された史料です。また、中世史料（市重要文化財「和田城並びに興禅寺境内古絵図」）には【ウ】付近に「筏場」の表現がみられ、材木を下流に流す運送は中世にさかのぼることがうかがえます。

- ア（１）国土資源遺産 （２）自然遺産
（３）日本遺産 （４）林業遺産

〔正解 ４〕

- イ（１）けやき櫟 （２）松 （３）桜 （４）ひのき檜

〔正解 １〕

- ウ（１）下室田町 （２）常盤町 （３）藤塚町 （４）八幡原町

〔正解 ２〕

●解説

江戸で消費される材木を伐り出し、大量に運ぶため、筏にして組んで下流に流す運送が江戸時代には行われていました。上流部では1本1本を下流に流す管流しという方法が行われ、聖石橋付近などではこのように流されてきた材木を筏に組み、さらに下流に流していました。

「川浦山御用木御伐出絵図」は鳥川上流部における木の伐り出しから管流し

をする様子を描いた絵図になり、江戸時代の運送方法が詳細にわかる絵図として、令和2年度の林業遺産に選定されました。

問 18

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

高崎市域には高崎藩と吉井藩の他にもいくつか藩がありました。その一つ、豊岡藩は江戸時代初期、真田十勇士のモデルの一人とされる【ア】氏によって開かれました。20数年で廃藩となってしまったため、詳細は不明ですが、下豊岡町にある常安寺が藩庁の場所であったと考えられています。

また、江戸時代中期に、旧榛名町に松平（奥平）氏が【イ】藩を開きました。立藩後、20年で甘楽郡小幡に転封になったことから【イ】藩は廃藩となりましたが、藩庁があった辺りには陣屋、御殿の地名が残っています。

ア（1）根津^{ねづ} （2）海野^{うんの} （3）霧隠^{きりがくれ} （4）三好^{みよし}

〔正解 1〕

イ（1）室田 （2）箕輪 （3）上里見 （4）高浜

〔正解 3〕

●解説

上里見藩は1747（延享4）年、陸奥国桑折藩主であった松平（奥平）忠恒が上野国邑楽郡篠塚に転封になり、さらに翌1748（寛延元）年に碓氷郡上里見に陣屋を移したことにより始まります。忠恒は奏者番、寺社奉行、若年寄を歴任するなど、幕閣の中樞を担った譜代大名でした。石高は2万石でした。陣屋は東西50間（90メートル）、南北40間（72メートル）で、これを中心に離御殿、八幡宮、倉庫、藩士の屋敷などがあつたと伝えられています。

1767（明和4）年、明和事件で移封になった織田氏に代わり、甘楽郡小幡に移ったため、上里見藩は20年で廃藩となりました。松平氏小幡藩はこの後、百年余りを経て、明治維新を迎えます。

豊岡藩は根津信政が1602（慶長7）年、5千石の加増を受け、前封と合わせて1万石となり、大名に列し、立藩されました。上野国碓氷郡豊岡に陣屋を置いたことから、豊岡藩と呼ばれます。根津氏は海野氏の末裔で、代々信

濃國小県郡に住し、広大な勢力を誇った名族でした。信政の後、政次、吉直と続きましたが、吉直が若くして死去し、世継ぎがなかったことから、1626（寛永3）年、3代で廃藩となっていました。

豊岡小学校の北西にある常安寺が陣屋跡と言われています。



常安寺（下豊岡町）

問 19

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

県指定重要文化財の『櫻井家旧蔵「高崎城絵図並びに文書」附箱2点』の中には、高崎城を詳細に描いた絵図があります。その中には高崎城内の門や本丸の【ア】をはじめとする各櫓などが図示され、寸法も記された絵図や高崎城の土居に植えられた全ての【イ】の種類などが記され、土居上の施設の種類がわかるように描かれた絵図もあります。これらの絵図は詳細な内容で高崎城を知る上で欠かすことのできない貴重な史料ばかりです。

ア（１）御三階櫓 （２）月見櫓 （３）天秤櫓 （４）伏見櫓
〔正解 １〕

イ（１）芝 （２）樹木 （３）花 （４）野菜
〔正解 ２〕

●解説

県指定重要文化財『櫻井家旧蔵「高崎城絵図並びに文書」附箱2点』は高崎藩や高崎城に関する総点数164点の文書史料です。そのうち101点は高崎

城及び高崎藩にかかわる絵図群であり、高崎城を知る上で、欠かすことのできない貴重な史料ばかりです。

特に、「御門御櫓両刎橋武者雪隠絵図」は、高崎城内の門や本丸の御三階櫓をはじめとする各櫓などが図示され、寸法も記されています。また、「御城御土居通御植物木尺附絵図」は高崎城の土居に植えられた全ての樹木の種類などが記され、土居上の施設の種類がわかるように描かれています。そのほか、「御城内外惣絵図」には、高崎城内外の藩士の居宅が図示され、その間口・奥行や居住者名が記されるなど、それぞれ詳細な内容になっています。

問 2 0

次の文章のうち、【ア】～【エ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

5代将軍徳川綱吉の側用人として重用された【ア】は、1695（元禄8）年に高崎城主に封じられ、6代将軍に家宣が就くと罷免され越後国村上へ転封となりました。しかし、吉宗が8代将軍に就くと勤務ぶりと人柄が評価され、高崎へ再封となり【イ】に任ぜられ重用されます。【ア】の官途名に因んで【ウ】^{こしらえ}と呼ばれる高崎藩独得の刀装と、彼の一族が10代約170年間にわたり高崎を治めた治政や農業振興などが記録された【エ】は、共に市の重要文化財に指定されています。

- ア（1）^{まつだいらかたもり}松平容保 （2）^{まつだいらさだのぶ}松平定信
 （3）^{まつだいらてるさだ}松平輝貞 （4）^{まつだいらのぶつな}松平信綱

〔正解 3〕

- イ（1）大目付 （2）勘定奉行 （3）大老 （4）老中格

〔正解 4〕

- ウ（1）^{うきょう}右京 （2）^{かわち}河内 （3）^{さがみ}相模 （4）^{ずしょ}図書

〔正解 1〕

- エ（1）^{おかきとめちよう}御書留帳 （2）^{たかじょうにつし}鷹城日誌
 （3）^{てんきゅういん き}天休院記 （4）^{むみようしよ}無銘書

〔正解 4〕

●解説

松平輝貞は、「知恵伊豆」と称された川越藩主・老中松平伊豆守信綱の孫にあたり、叔父の土浦藩主信興の養子に迎えられ、壬生藩を経て高崎城主5万2千石に就きます。家督相続以前から將軍綱吉に小姓として仕え、成人すると側用人として、また、学問の子弟として綱吉の信頼を得、7万2千石にまで加増されますが、綱吉が死去すると6代將軍家宣は綱吉の側近を排除したため、輝貞は越後村上藩へ転封となります。しかし、吉宗が8代將軍に就くと輝貞は高崎に再封となり、綱吉に仕えていた実務能力と人柄を評価していた吉宗は、老中格に起用し相談相手として側に置きました。



松平輝貞官服図

輝貞の高崎藩は、武備として腰刀に太刀姿を残すため、柄を太刀拵に決めました。この拵は輝貞の官途名右京大夫かんだうきょうだいぶに因んで「右京拵」と呼ばれます。

また、江戸時代の後半は、大河内家が10代にわたり約170年間藩主を務めました。その間の領内の治世、農業振興策、大坂城代や京都所司代を勤めた時の記録、神社や寺院の建築などを記録した『無銘書』が残されています。

問 2 1

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

利根郡新治村（現みなかみ町）に生れた【ア】は、江戸に出て薪炭商山口屋に奉公し、勤勉に働きながら蓄財に励み、42歳で独立し歌に詠まれるほどの豪商となりました。一方、公益事業などへ多額の私財を投じ、その寄進した一つに、榛名湖を見下ろす【イ】の【ウ】があります。この人の名声は三遊亭圓朝さんゆうていえんちょうが1878（明治11）年に発表した「【ア】一代記」により一躍高まり、立身出世物語として多くの人々の共感を呼ぶこととなります。

- ア (1) ^{か べ やす さ え も ん}加部安左衛門 (2) ^{くろい わ じ ゅ う べ え}黒岩重兵衛
(3) ^{も ぎ そ う べ え}茂木惣兵衛 (4) ^{し お ば ら た す け}塩原太助

〔正解 4〕

- イ (1) 天神峠 (2) 二度上峠
(3) 松之沢峠 (4) ヤセオネ峠

〔正解 1〕

- ウ (1) 石燈籠 (2) 石祠 (3) 地藏尊 (4) 道しるべ

〔正解 1〕

●解説

榛名湖町の天神峠頂上に建つ大きな石燈籠（高崎市指定重要文化財）は、上毛かるたで知られる「沼田城下の塩原太助」が寄進したものです。太助は利根郡新治村下新田（みなかみ町）に生れ、江戸に出て炭屋山口屋に奉公し、勤勉に働きながら蓄財に励み42歳で独立し、木炭の粉を炭団にする発明などで財を為し、「本所に過ぎたるものが二つあり、津軽屋敷（津軽藩10万石）に炭屋塩原」と詠われるほどの大商人になりました。

太助が広く世に知られるようになったのは、三遊亭圓朝の人情話「塩原太助一代記」で人々を感動させ、明治天皇の前でも口演されるほどで、戦前は尋常小学校の修身教科書に採用されています。作者の圓朝は幕末から明治にかけて活躍した落語中興の祖と称される大名人で、山岡鉄舟、渋沢栄一、井上馨など当代一流人とも交流がありました。

高崎藩最後の藩主大河内輝聲子爵もその一人で、家紋の雁木三つ扇（高崎扇）の使用を許すほど大いに慕いしています。

太助は富豪になっても謙虚な気持ちを忘れず、多額な私財を道路整備や治水事業など公益事業に投じ、また、亀戸天満宮、金比羅山、榛名神社など多くの寺社などへ寄進をしています。



石燈籠（榛名町天神峠頂上）

問 2 2

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

1859（安政6）年に日本が開国すると、国産の絹は高値で取引され、上州からは大量の生糸が横浜商人を通して輸出されました。その一方で生糸を使った織物を生産していた人々は、原料の値段が上がり困窮しました。

また二度にわたる【ア】の影響で米を中心とした生活物資も高騰し、生活に困窮する人々を主体とした【イ】が各地で発生しました。このうち1866（慶応2）年に発生した武州【イ】は国境を越えて上州の藤岡・新町まで波及しています。

- ア（１）会津戦争 （２）上野戦争
（３）長州戦争 （４）三国戦争

〔正解 3〕

- イ（１）土一揆 （２）世直し一揆
（３）白旗一揆 （４）助郷一揆

〔正解 2〕

●解説

開国により日本国内の大量の生糸が輸出されると、上野国内の生糸売込商人は莫大な利益を得るようになりました。一方で世界市場への編入は国内の物価騰貴をもたらし、貧しい農民は借金で土地を手放し、豪農は土地を集積して、村落内の経済格差は広がっていきました。

1866（慶応2）年6月に第2次長州戦争が始まると、①米麦の買い占め、②長州藩による下関遮断があり、加えてこの年の天候不順による凶作は、さらなる物価の高騰をもたらしました。

また、幕府が戦費捻出のために幕領全域に御用金を課し、生糸、蚕種の新税政策を打ち出したのです。

こうしたことから、この年5月には兵庫、大坂、江戸で打ちこわしが頻発、6月13日には秩父郡上名栗村（埼玉県飯能市）で一揆が発生、武州全域に拡大します（武州世直し一揆）。

世直し勢は生糸商人、米穀商人などの屋敷・蔵などを打ちこわし、参加者を増やしながら各地に分派、上武国境を越えて藤岡・新町に侵入しました。上州でも呼応する人々が世直し勢に参加する中、岩鼻陣屋の関東郡代・木村甲斐守勝教が、高崎藩をはじめとする上州諸藩を指揮します。徴用された農兵銃隊による銃撃などにより、一揆は発生から7日間で鎮圧されてしまいました。

問 2 3

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

旧新町紡績所は、2015（平成27）年に国史跡・重要文化財に指定された国内最初の屑糸を使用する紡績所で、1877（明治10）年に官営【ア】紡績工場として設立されました。明治期の【ア】紡績工場としては現存する国内唯一の遺構で、製造を行った工場、その動力を生み出す機関室、できあがった製品を納める倉庫など、明治期の工場システムが残っているということでも価値があります。

この紡績所はその後、民間に払い下げられ、鐘淵紡績株式会社（後のカネボウ）の紡績工場として1975（昭和50）年まで使用され、現在はクラシエフーズ株式会社新町工場となって、建物を保存しながら【イ】を製造している現役の工場です。

ア（1）麻糸 （2）絹糸 （3）綿花 （4）羊毛

〔正解 2〕

イ（1）医薬品 （2）化粧品 （3）食品 （4）半導体

〔正解 3〕

●解説

旧新町紡績所は1877（明治10）年に操業を開始した国内最初の官営絹糸紡績工場で、原料に屑糸を使用し、絹糸紡績業の発展に大きな役割を果たしました。

1888（明治20）年には、民間の三越呉服店に払い下げられ、さらに、1911（明治44）年には鐘淵紡績株式会社（後のカネボウ）の経営になり、1975（昭和50）年までの間、一時中断はあったものの基本的に絹糸紡績工場として操業されました。その後、カネボウフーズ（平成19年にクラシエフーズに社名変更）株式会社新町工場となって、食品を製造する工場になり、建物を保存しながら現在も操業しています。

問 2 4

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

箕郷町柏木沢（旧群馬郡相馬村）の不動寺前には、1887（明治20）年5月23日に発生した自然災害を伝えるために建立された碑があります。

碑文には、「この日天候が突然急変し雷鳴が轟き、雨の如く雹^{ひょう}が降り一尺餘堆積した。この為桑葉、麦穂や蔬菜が大被害を受け飼育中の【ア】を大量に放棄しこの地に埋め供養した。この体験を後世に伝えるため被災10年を期して【イ】を祀りこの碑を建立した」とあります。

ア（1）兎 （2）蚕 （3）鶏 （4）豚

〔正解 2〕

イ（1）家畜供養神 （2）蚕影山大神
（3）絹笠神 （4）雷神

〔正解 2〕

●解説

箕郷町柏木沢（旧群馬郡相馬村）の不動寺前には、1887（明治20）年5月23日に発生した自然災害を後世に伝えるための碑があります。

碑文には、「この日天候が突然急変し雷鳴が轟き、雨の如く雹が降り一尺餘堆積した。この為桑園・麦・蔬菜が大被害を受け、飼育中の蚕を大量に放棄しこの地に埋め供養した。この体験を後世に伝えるため被災10年を期して蚕影山大神を祭りこの碑を建立した」とあります。

明治20年から30年代には、全国的に一段と養蚕業が盛んとなり、高崎周辺の農家も広大な桑畑を持ち、蚕飼育を組み込んだ農業経営をしていました。しかし、晩春から早春の霜や雹被害は飼育中の蚕を廃棄しなければならないこともありました。この碑は蚕の主食である桑が雹被害を受け、処分した際の蚕の供養と耕作物災害の教訓を後世に伝えています。

1965（昭和49）年「柏木沢の蚕影碑」として市指定史跡になりました。

問 2 5

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

旧高崎藩士の家に生まれた【ア】は、英語の師・星野光多牧師の推薦で【イ】に入学しました。卒業後は徳富蘇峰主宰の国民新聞社に入社、蘇峰の推薦で大蔵大臣松方正義の秘書官に転じますが、松方の蔵相辞職に伴い松方の推薦で【ウ】に入ります。上司の高橋是清に随行し日露戦争の戦費調達のため欧米へ出張し、外債調達に成功します。その後、【ウ】のトップとして世界恐慌下の金融調整や経済激動下における金融経済の舵取りを行いました。

- ア (1) ^{いけだしげあき}池田成彬 (2) ^{しぶさわけいぞう}渋澤敬三
 (3) ^{せきねさくさぶろう}関根作三郎 (4) ^{ふかいえいご}深井英五

〔正解 4〕

- イ (1) 有馬英学校 (2) 東京英学校
 (3) 同志社英学校 (4) 前橋英学校

〔正解 3〕

- ウ (1) 日本興業銀行 (2) 日本銀行
 (3) 三井銀行 (4) 横浜正金銀行

〔正解 2〕

●解説

深井英五は高崎藩の勘定奉行等を歴任した深井景忠の五男として1871(明治4)年に高崎城下北郭(柳川町)に生まれました。父と兄たちは水戸天狗党追討の下仁田戦争に出陣、長兄は銃弾を受け自刃しています。幼年時には、堤辰二(大日本教育会全国表彰を受けた高崎尋常小学校長)と星野光多(西群馬教会牧師)に深く影響を受け、星野牧師の推薦で新島襄の募集する受給者に選ばれ、同志社英学校(のち普通学校や神学校に改称)に16歳で入学します。

卒業後徳富蘇峰の国民新聞社に入社し、蘇峰の推薦で大蔵大臣松方正義の秘書官に転じ、松方の蔵相辞任に伴う失職の後、松方の推薦で日本銀行に入行しました。高橋是清副総裁(日銀総裁、大蔵大臣、総理大臣)に随行し欧米へ出張、日露戦争の



海外会議へ出港する
深井英五副総裁(右)

戦費調達のため戦時外債8億円の調達に成功しています。各種の国際会議の日本代表メンバーを務め、

1928（昭和3）年副総裁に就任すると井上準之助総裁を補佐して、金融恐慌など厳しい経済情勢のもと円滑な金融の確保に努めました。

同10年には私学出身では異例の抜擢で総裁に就任、二・二六事件に際しては巧みに金融界の動揺を抑えましたが、軍事費増大による赤字国債の発行に抗しきれず、同12年に総裁を辞任しました。

歴代総裁の中で最も経済理論に精通し通貨政策の最高権威者といわれています。

問 2 6

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

新町宿出身の小林信平（^{じょうしゅう}穰洲）（1826～1909）は、若い頃から学問にはげみ、幕末には高崎に教場「文藻堂」を開きました。維新後、新町小学校の前身【ア】が開設されると、信平は多くの若者を指導しました。

その後信平は、上京して文人・知識人と交流しましたが、晩年には帰郷します。彼が80歳の時に、その功績を讃えた「穰洲先生寿蔵之碑」（市指定史跡）が新町5区の【イ】に建てられました。

ア（1）懇信社 （2）積善小館 （3）文武館 （4）英学校

〔正解 1〕

イ（1）行在所 （2）於菊稻荷神社
（3）諏訪神社 （4）岩倉橋のたもと

〔正解 3〕

●解説

小林信平（穰洲）は、1826（文政9）年に新町宿の小林伝兵衛の次男として生まれます。幼名は徳次郎で、その後信平と称し、「赤城其堂」「文藻」と号しました。

信平ははじめ同宿の千木良松翁に手習いを、筑前国（福岡県）出身の宗像芦屋に書を学びます。1848（嘉永元）年信平は、保渡田村（保渡田町）の医師で学者の安中文瑛に学び、その後高崎城下に教場「文藻堂」を開きました。1864（元治元）年新町宿に戻り朱子学を教えていた信平でしたが、維

新後の1872（明治5）年に新町の浄泉寺に「懇信社」（新町第1小学校の前身）が開設されるとそこで教授しました。

しかし同8年には上京して神田神保町に住み（数え50歳）、書、俳句、俳画により、文人・知識人と交流します。晩年帰郷して1909（明治42）年に、地元の人々に慕われながら84歳で亡くなりました。

問 27

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

高崎市ゆかりの俳人・村上鬼城は鞆町に住み、中曽根白史や田島武夫らが鬼城を囲み句会【ア】を開いていました。1927（昭和2）年、鬼城64歳の時に居宅は全焼しました。翌年、【ア】が鬼城宅の再建を全国に呼び掛け、吉井勇や島崎藤村など多くの賛同を得ました。鬼城は再建した新しい居宅を【イ】と命名し、後進の指導を行いました。さらに【ア】は俳誌【ウ】を創刊しました。

ア（1）紫苑会 （2）五日会 （3）若竹会 （4）鳥声会

〔正解 2〕

イ（1）しゅんあいかん 春 靄館 （2）並榎村舎 （3）武徳殿 （4）戸方庵

〔正解 2〕

ウ（1）あさを （2）黄花 （3）桜草 （4）桑海

〔正解 3〕

●解説

村上鬼城（本名壮太郎1865～1938）は、耳が不自由になりながらも優れた俳句を残し、俳聖、境涯の俳人と讃えられています。

1927年（昭和2）、鬼城が64歳のとき、高崎市鞆町の鬼城庵が類焼のため全焼してしまいました。鬼城庵を再建するため、鬼城の句会「五日会」の同人が中心となり、鬼城揮毫会を起こしました。発起人75人、賛助員41人で、高浜虚子、吉井勇、鈴木三重吉、野口雨情、土屋文明、島崎藤村、斎藤茂吉らが名を連ねました。翌年、高崎市並榎町に新居が完成し、鬼城はここを「並榎村舎」と名付けました。また五日会の企画により、1931（昭和6）年に俳誌「桜草」が創刊されました。

市は村上鬼城の功績を顕彰するため、鬼城草庵の公有化を進めています。

問 28

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

1998（平成10）年、史上初めて、2度の平幕優勝を果たした琴錦は旧【ア】町の出身です。突き、押しの速さから「F1相撲」と評され、若貴ブームの中で土俵を沸かせました。

明治30年代に167センチメートルと小兵ながら突き押し相撲で活躍し、優勝に相当する成績を残し、関脇になった力士に下豊岡町出身の【イ】がいます。1900（明治33）年、成田山光徳寺（成田町）で行われた勧進相撲には【イ】を一目見ようと1日で6,000人の観客が押し寄せたといいます。

ア（1）倉渕 （2）吉井 （3）箕郷 （4）群馬

〔正解 3〕

イ（1）稲川 （2）雷電 （3）小錦 （4）栃赤城

〔正解 1〕

●解説

高崎は相撲の世界で二人の関脇を輩出しています。

一人は箕郷町出身の琴錦で、小柄な身体から繰り出される速攻の突きと押しの取り口から「F1相撲」と評され、史上初となる二度の幕内優勝を果たすなど、その活躍は多くの相撲ファンを魅了しました。

現在、千葉県鎌ヶ谷市に朝日山部屋を興し、後進の育成にあたっています。

もう一人は明治時代に活躍した稲川です。1871（明治4）年、旧碓氷郡豊岡村（下豊岡町）の生まれで、本名は吉井貞四郎と言いました。13歳で入門し、16歳で初土俵を踏み、出身地の名から「豊岡」を四股名として名乗りました。ずんぐりとした体からの突き押しを武器に頭角を現し、1900（明治33）年1月場所で8勝1敗という優勝に相当する成績をあげました。その後、「玉風」、続いて名跡「稲川」を襲名し、1902（明治35）年に関脇に昇進しました。

下豊岡町常安寺に墓があります。

問 29

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

旧大類村は、1956（昭和31）年、高崎市に合併しますが、このうちの【ア】町は、翌年、高崎市から分離し、群南村に編入しました。その群南村も、1965（昭和40）年には、工業団地の造成や、【イ】の進出などにより、工業化、市街化が進んだことから、高崎市に合併します。

1979（昭和54）年には、【ア】町内に高崎市総合卸売市場が開設されました。毎月第2、第4土曜日に開催される【ウ】は、一般市民にも開放され、多くの来場者で賑わいます。

ア（1）中大類 （2）下大類 （3）宿大類 （4）南大類

〔正解 2〕

イ（1）沖電気 （2）麒麟ビール
（3）太陽誘電 （4）日本原子力研究所

〔正解 4〕

ウ（1）ウキウキ感謝デー （2）ドキドキ感謝祭
（3）ニコニコ感謝デー （4）ワクワク感謝祭

〔正解 3〕

●解説

旧大類村は、明治の大合併により、上大類、中大類、下大類、宿大類、南大類、柴崎の6か村が合併し誕生しました。

昭和の大合併の際に、旧大類村では、高崎市との合併を希望する住民と、純農村として京ヶ島村や滝川村との合併を望む下大類地区や柴崎地区の住民との間で村内が紛糾しましたが、1956（昭和31）年に全村がいったんは高崎市と合併します。

時を同じくして、京ヶ島村と滝川村が合併し、群南村が成立しますが、翌1957（昭和32）年、下大類町は高崎市から分離し、群南村に編入して、同村の大字となります。その後、1965（昭和40）年、群南村の高崎市との合併により、再び高崎市下大類町となりました。

同町内にある高崎市総合卸売市場は、高崎の食品流通の基盤を支えており、市民の安心安全な食生活に不可欠の役割を担っています。

問 30

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

民俗資料の収集・保存・展示を目的とした施設【 ア 】は、2020（令和2）年8月、国登録有形文化財に登録されました。【 ア 】は1958（昭和33）年に、【 イ 】役場として建設されたもので、国登録有形文化財に登録された木造庁舎としては現存する県内唯一の建造物です。本市の国登録有形文化財は、【 ア 】の登録により14件になりました。

なお本市の第1号は、吉田家住宅和泉庄御殿と並んで、【 ウ 】が登録されました。

- ア (1) 高崎市歴史民俗資料館 (2) 吉井郷土資料館
(3) 榛名歴史民俗資料館 (4) 倉賀野古商家おもてなし館

〔正解 1〕

- イ (1) 倉賀野町 (2) 群南村 (3) 岩鼻村 (4) 新高尾村

〔正解 2〕

- ウ (1) 豊田屋旅館本館 (2) 長松寺本堂
(3) 門倉家住宅(善徳坊)主屋 (4) 高崎白衣大観音

〔正解 4〕

●解説

高崎市歴史民俗資料館は、元は群馬郡の滝川村と京ヶ島村の合併によって誕生した群南村の役場庁舎として、1958（昭和33）年に建設された建物でした。群南村は1965（昭和40）年、高崎市に合併したため、建物は高崎市群南支所・公民館として使用されて来ましたが、1978（昭和53）年に市内に残る民俗資料の収集、保存、展示を目的とした歴史民俗資料館として開館し、現在に至ります。



高崎市歴史民俗資料館（上滝町）

旧群南村役場庁舎は昭和の大合併と市町村の変遷を物語る建物であること、一部に改修が見られるものの間取り、仕上げ等は建設当時のままで、昭和30年代の地方における木造の役場庁舎として希少価値が高いこと、さらに現在も歴史民俗資料館として有効活用されていることなどの理由から、2020（令和2）年、国登録有形文化財に登録されました。

この登録で、高崎市の国登録有形文化財は14件となりましたが、本市で最初に登録されたのが、吉田家住宅和泉庄御殿と高崎白衣大観音像でした。

問 3 1

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

群馬の森は、かつての陸軍の岩鼻火薬製造所の跡地に、【ア】を記念して整備が進められ、1974（昭和49）年に開園しました。今も園内に残る【イ】は、火薬の爆発事故による被害を防ぐためのもので、かつての名残を今にとどめています。

園内にある県立近代美術館では国内外の近代美術が収蔵展示され、県立歴史博物館では、原始から近現代に至るまでの群馬県の歴史や文化の通史展示のほか、一括して国宝に指定された「群馬県【ウ】出土品」が常設展示されています。

- ア（１）皇太子（現上皇）成婚 （２）高崎市制70年
（３）東京オリンピック （４）明治100年

〔正解 ４〕

- イ（１）生け垣 （２）金網 （３）土塁 （４）堀割

〔正解 ３〕

- ウ（１）観音塚古墳 （２）上野国分寺跡
（３）保渡田古墳群 （４）綿貫観音山古墳

〔正解 ４〕

●解説

群馬の森は、明治100年記念事業として、旧陸軍岩鼻火薬製造所跡地に建設された公園です。園内には、土塁のほかコンクリート製の関連施設が残されています。また、「我が国ダイナマイト発祥の地」と刻まれた石碑（ダイナマイト碑）が、1973（昭和48）年、園内に建立されています。

県立歴史博物館では、銅水瓶や銅鏡、金属製品、ガラス製品などの副葬品のほか多くの埴輪など、2020（令和2）年に一括して国宝指定された「群馬県綿貫観音山古墳出土品」が保管され、常設展示されています。

問 3 2

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

陸軍前橋飛行場（【ア】飛行場）は、第二次世界大戦中に、旧【ア】村を中心に約160ヘクタールの田畑を強制買収し、飛行兵の養成を目的として建設された飛行場です。滑走路は、コンクリート敷きではなく、地面に【イ】を敷いたものでした。

この飛行場で訓練をした特攻隊は誠隊（正気隊）と呼ばれ、ここから九州を経た後、沖縄に向け飛び立ちました。

2000～2003（平成12～15）年にかけて、発掘調査が行われ、飛行場の遺構のほか、【ウ】時代の竪穴住居跡を中心に多くの遺構や遺物が確認されました。

ア（1）上郊 （2）新高尾 （3）堤ヶ岡 （4）長野

〔正解 3〕

イ（1）金網 （2）木の板 （3）砂利 （4）竹束

〔正解 1〕

ウ（1）縄文 （2）古墳 （3）奈良・平安 （4）戦国

〔正解 3〕

●解説

陸軍前橋飛行場（堤ヶ岡飛行場）は、旧堤ヶ岡村を中心に旧国府村、旧中川村を含む地域の田畑を接収し、1943（昭和18）年から建設された飛行場です。終戦まで、特別攻撃隊の訓練施設として使用されました。

終戦後は、再び農地化するために開墾され、1951（昭和26）年までにすべての耕地が売り渡され、現在では、一部施設の基礎コンクリートのごく一部が住宅地に残るほかは、飛行場の痕跡を見ることはできません。

2000～2003（平成12～15）年にかけての西毛広域幹線道路の建設のための事前発掘調査では、飛行場の遺構のほか、原始・古代から近代までの遺跡が発掘されました。

問 3 3

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

市内の小・中・高校にはクスノキ、エノキ、ユズリハ、イチョウなど、様々なシンボルツリーが植えられています。

高崎女子高等学校は1899（明治32）年、県下初の県立高等女学校として開校しましたが、かつて校舎があった末広町（高崎市文化会館、中央公民館の場所）の校庭にはクスノキと【ア】が植樹されました。特に、【ア】は学校の文化祭の名称に用いられるなど、同校を象徴する樹木となっています。

これらの中には幹が黒く焼け焦げたものが見られます。かつてここが【イ】を受けたことを物語る痕跡です。

- ア（１）ヤマボウシ （２）マツ
（３）シイノキ （４）ユリノキ

〔正解 3〕

- イ（１）空襲 （２）焼き討ち （３）放火 （４）落雷

〔正解 1〕

●解説

市内の小学校には様々なシンボルツリーがあります。北小学校のエノキ、南八幡小学校・久留馬小学校のクスノキ、新高尾小学校のイチョウ、東部小学校のユズリハなど樹種は様々です。学校が出来る前から生えていたもの、開校を記念して植えられたもの、校歌に歌い込まれたもの、育てたい児童の姿を樹木に託したものなど歴史や背景も様々ですが、どれも学校の象徴するものとして大切に守られてきました。

1899（明治32）年、県内初の高等女学校として、本町の春靄館を仮校舎



高女の移転後も残る
クスノキの樹列（末広町）

に群馬県高等女学校（今の高崎女子高等学校）が開校しました。翌33年には竣工なった末広町の新校舎に移転し、続く34年には周囲の水田を埋め立て、敷地の拡張工事が行われました。そして、37年に敷地を囲むようにシイノキ200本が、39年にはクスノキ40本が植えられ、大きく成長した樹木はその後の同女を象徴する景観の一つとなりました。

問 3 4

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

市内初の屋内運動場である武徳殿は、1937（昭和12）年、【ア】内に建てられました。その後、改装を経て、高崎体育会館、高崎市体育館と名称を変えますが、1963（昭和38）年、高崎駅東口に市立体育館（中央体育館）が建設されたため、その役目を終えました。

2017（平成29）年には下和田町に国際大会規格に対応した高崎アリーナがオープンし、全国レベルの様々な競技会が開催されています。また、現在、老朽化した新町住民体育館に替えて、新体育館を建設中です。鉄骨造3階建ての新体育館は【イ】機能を備えた、全国でも類を見ない施設となります。

- ア（1）旧制高崎中学校 （2）群馬郡役所
（3）護国神社 （4）高崎公園

〔正解 4〕

- イ（1）防災 （2）集客 （3）発電 （4）学校

〔正解 1〕

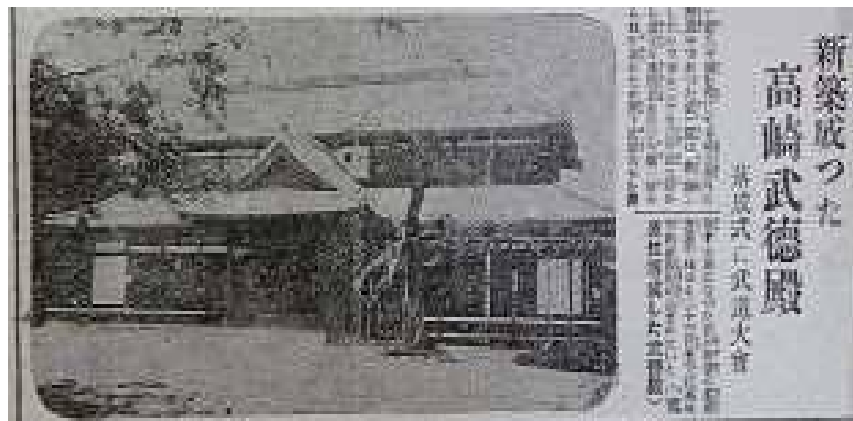
●解説

昭和10年代になると、久保田宗太郎市長の元で、城南野球場（1936（昭和11）年竣工）を始めとして、多くの体育施設が整備されていきます。1938（昭和13）年には城南水泳場が落成、続く1940（昭和15）年には高崎総合運動場（城南）が竣工し、野球場とプール、陸上競技場が隣接して造られました。

また、屋内運動場（体育館）として、1937（昭和12）に武徳殿が高崎公園内に建てられました。戦後、改装され、高崎体育会館、後に高崎市体育館と名称を変えますが、主に剣道、柔道、ボクシング、重量挙げの会場として

利用されました。1963（昭和38）年、高崎市東口に市立体育館（中央体育館）が整備されたため、武徳殿は高崎経済大学に移築され、大学の体育館として利用されました。

2017（平成29）年には下和田町に国際大会規格に対応した高崎アリーナがオープンしましたが、現在、（2021（令和3）年）新町に新町防災体育館（仮称）を建設中です。鉄骨造3階建ての新体育館はスポーツ施設としてだけでなく、大規模災害時には避難場所や地域の防災拠点としての機能を備えた、全国でも類を見ない施設となります。屋上にはヘリポートも設置されます。（2021. 12月完成予定）



武徳殿の完成を伝える上毛新聞

問 3 5

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

1908 (明治41) 年、高崎の中央小学校長であった深井小五郎が著した『高崎唱歌』の10番は旧市の中心部のことを「明治三十七八年 日露戦役記念園 其外高崎裁判所 学校市役所ある処」とうたっています。「高崎裁判所」とは仮庁舎から1878 (明治11) 年に宮元町に新築移転してきた高崎区裁判所のことです。その後、裁判所は高松町の現在地に移転しますが、跡地は今【ア】になっています。

また、現在の裁判所の敷地内には裁判所構内代書人であった【イ】の句碑が建てられています。

- ア (1) もてなし広場 (2) 高崎スズラン
(3) 城址公園 (4) 東京電力

〔正解 2〕

- イ (1) よしのひでお 吉野秀雄 (2) むらかみ きじょう 村上鬼城
(3) とよだ かずお 豊田一男 (4) つちやぶんめい 土屋文明

〔正解 2〕

●解説

明治政府にとって、司法制度の改革は喫緊の課題でした。政府は1871 (明治4) 年に司法省を設置し、翌明治5年に司法卿に江藤新平を任命し、司法制度の近代化に向けた改革に乗り出します。

司法省は司法権を全国に張り巡らすために、府県単位に府県裁判所を、その下に区裁判所を配置することにしました。これに伴い、1873 (明治6) 年に高崎区裁判所が設置されることになりましたが、当初は安国寺 (通町) を仮庁舎とし、業務を行っていました。さらに、前橋所在の群馬区裁判所が高崎に移され、群馬県一円の裁判を管轄するようになりました。

この間、旧文武館 (明治元年に設けられた藩校。) を仮庁舎とするなどしましたが、1878 (明治11) 年、宮元町13番地の官有地に庁舎が建設され、移転しました (今の高崎スズランの場所です)。

その後、裁判所は1964 (昭和39) 年に現在地の高松町 (シティギャラリー西隣) に移転し、現在に至ります。

問 3 6

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

群馬交響楽団が加盟している日本のオーケストラ連盟の正会員（プロ）のオーケストラは25団体で、このうち【 ア 】に13団体あり、地方都市との格差があります。

群馬交響楽団は1シーズンに高崎で【イ】、東毛で1回の定期演奏会（Subscription Concert）とすみだトリフォニーホールでの公演、「県民音楽のひろば」などの公演（Regular Concert）、学生のための公演を行っています。

- ア (1) 東京 (2) 東京と大阪
(3) 東京と大阪、神戸 (4) 東京と大阪、名古屋

〔正解 2〕

- イ (1) 5回 (2) 7回 (3) 9回 (4) 12回

〔正解 3〕

●解説

今日の音楽文化は AV 機器、YouTube 等によって、日常的に音楽に触れることができます。一方、実演の音楽と接する機会は以前の状況とそれほど変わっていません。

高崎では、群馬交響楽団と関係者によってさまざまな形で日常的な演奏会や、非日常の演奏会が開かれています。これはクラシック以外のジャンルでも同様で、高崎は地方都市の中では稀な音楽文化がある街だといえます。

問 3 7

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

東毛広域幹線道路は、【ア】を起点に、伊勢崎市、太田市などを経て板倉町に至る延長59キロメートルの幹線道路で、2014（平成26）年に開通し、2016（平成28）年に全区間が4車線化されました。

高崎市は、東毛広域幹線道路と関越自動車道の交差部に【イ】を整備し、その周辺に産業団地を造成しました。

高崎への進出を希望する企業が多かったため、現在高崎市総合卸売市場周辺にも新たな産業団地の造成を進めています。

- ア（１）君が代橋東交差点 （２）高崎ジャンクション
（３）高崎駅西口 （４）高崎駅東口

〔正解 ４〕

- イ（１）高速バスターミナル （２）国際貨物ターミナル
（３）ヘリポート （４）高崎玉村スマートインターチェンジ

〔正解 ４〕

●解説

東毛広域幹線道路は、高崎駅東口を起点に、板倉町に至る延長59キロメートルの幹線道路です。

高崎玉村スマートインターチェンジは、東毛広域幹線道と関越自動車を接続する本線直結のフルスペック型として2014年（平成26）2月に開業しました。高崎市はこのスマートインターチェンジ周辺に「高崎スマート IC 産業団地」を整備しましたが、進出を希望する企業が多かったため、高崎市総合卸売市場周辺に「高崎354複合産業団地」を造成しています。

問 3 8

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

国分【ア】は大正時代の初め、国府村西国分の農家有志が、種子をフランスから入手して品種改良を重ね、組合を結成し全国に販路を広げました。昭和の高度経済成長時には「煮崩れせずコクのある甘さ」と「鮮やかな色彩」が好評を博し、採取面積は35ヘクタールに及びました。しかし、その後生活の変化により短根【ア】にかわれ姿を消しました。国府小学校校庭には、この間の全国的評価を記念して1957（昭和32）年に建てられた碑が残っています。

現在この地は【イ】の生産地として生まれ変わっていますが、平成時代に入り国分【ア】の復活にも取り組んでいます。

- ア（１）ゴボウ （２）ダイコン
（３）サツマイモ （４）ニンジン

〔正解 ４〕

- イ（１）シュンギク （２）ネギ
（３）ハクサイ （４）ホウレンソウ

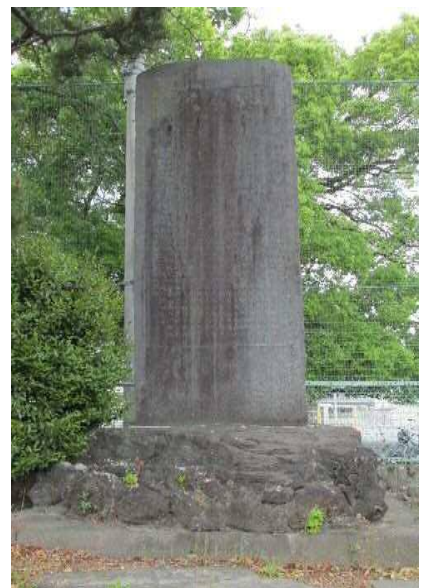
〔正解 ３〕

●解説

国分ニンジンは大正時代の初め、国府村西国分の農家有志が、種子をフランスから入手して品種改良を重ね、組合を結成し全国に販路を広げました。昭和の高度経済成長時には「煮崩れせずコクのある甘さ」と「鮮やかな色彩」が好評を博し、採取面積は35ヘクタール及びました。しかし、その後生活の変化により短根ニンジンにかわれ姿を消しました。

国府小学校校庭には、この間の全国的評価を記念して1957（昭和32）年に建てられた「国分人参誌」の碑が残っています。

現在この地はハクサイの生産地として生まれ変わっていますが、平成時代に入り国分ニンジンの復活にも取り組んでいます。



「国分人参誌」の碑（後疋間町）

問 3 9

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

高崎市は、平成の大合併によって人口【ア】を超え、中核市の人口要件を満たし、2011（平成23）年4月に中核市に移行しました。

これ以来高崎市は、それまで県が行っていた業務の一部を行うことができ、【イ】が設置されました。

【イ】は市民の健康や公衆衛生を守る組織で、食中毒の予防、食肉検査なども行っています。新型コロナウイルス感染防止に関する相談コールセンター、受診相談センターが開設されています。

ア（１）20万人 （２）30万人 （３）50万人 （４）70万人
〔正解 2〕

イ（１）高崎市保健所 （２）高崎総合医療センター
（３）高崎市総合福祉センター （４）衛生環境研究所
〔正解 1〕

●解説

中核市は、規模や能力が比較的大きな都市の事務権限を強化し、地域行政の充実を図ることを目的とした都市制度で、政令指定都市に次ぐ事務権限が認められています。

当時の中核市の要件は「人口30万人以上の市」とされており、高崎市は2006（平成18）年1月及び10月の合併により、人口約34万となり、中核市要件を満たしたことから、準備を進め、2011（平成23）年4月1日中核市へ移行しました。

中核市には、保健所業務を始めとする2400を超える事務が都道府県から移管されます。保健所の業務には食品衛生や感染症への対応が含まれ、新型コロナウイルス感染症対策では中心的な役割を担っており、市民からの相談対応、陽性者の疫学調査や療養・入院の調整、ワクチン接種業務などを行っています。

問40

「世界の記憶」に登録された上野三碑を題材にした「上野三碑かるた」が2020（令和2）年に完成しました。読み札は事前に一般公募し、約6,700点の応募から44点が選ばれました。

次の読み札の【ア】～【ウ】に入るものはそれぞれどれでしょうか。

ア 「日本三古碑 那須・【ア】・多賀城」

- (1) 山上 (2) 金井沢 (3) 多胡 (4) 入野

〔正解 3〕

イ 「のぞき込む磨崖は小暮の【イ】」

- (1) 穴薬師 (2) 穴大黒 (3) 鍾乳洞 (4) 風穴

〔正解 1〕

ウ 「布生産支える矢田の【ウ】」

- (1) 黒曜石 (2) 紡錘車 (3) 草木染 (4) 水運

〔正解 2〕

●解説

世界の記憶「上野三碑（山上碑・金井沢碑・多胡碑）」や高崎市内外の文化財などを紹介する「上野三碑かるた」が2020（令和2）年に製作されました。読み札の原案は、全国から公募され、三碑とともにゆかりの人物、周辺の史跡や産業などを題材とした44点が選ばれました。絵札は市内の画家が描き、読み札は高崎経済大学附属高等学校書道部生徒によって清書されました。

宮城県多賀城市の多賀城碑、栃木県大田原市的那須国造碑、高崎市の多胡碑は日本三古碑と呼ばれています。吉井町小暮の「小暮の穴薬師」は7世紀後半～8世紀初頭の横穴墓群で、高崎市市指定史跡に指定されています。

問 4 1

高崎地域でも使われることのある方言の中に、「はあて」「おつくべ」「おやげねえ」がありますが、それぞれの意味の組み合わせとして正しいものは次のうちどれでしょうか。

	はあて	おつくべ	おやげねえ
(1)	夕立	正座	だらしない
(2)	夕立	あぐら	かわいそう
(3)	風花	正座	かわいそう
(4)	風花	あぐら	だらしない

〔正解 3〕

●解説

高崎地域でも使われる群馬弁（上州弁）ですが、語尾の「～さあ」や「～だんべえ」などの言い方や、語尾が強く乱暴といった特徴が挙げられます。

名詞でも、「はあて」（＝風花）や「おつくべ」（＝正座）のほか、「わくさ」（＝カメムシ）、「めっぱ」（＝ものもらい）など独特のものがあります。

問 4 2

次の文章のうち、【 】に適するものは、下の選択肢のどれでしょうか。

かつて農家の年中行事は農作業と深く関わっていました。稲作や養蚕などでは、節目となる大事な作業を終えると、祝いの食を作り、労をねぎらいました。

蚕は「お蚕様（おこさま）」と呼ばれて大切に育てられ、蚕の生育に合わせて農家の行事が行われました。蚕は4回の脱皮を経て繭を作りますが、脱皮前に桑を食べるのをやめる時期を「休む」「眠（みん）」と呼びます。3回目または4回目の眠の時に、農家では【 】を作る習わしがあり、江戸時代の東国分村（東国分町）の文献にも記されています。

- (1) ぼたもち (2) やすみもち
(3) あずき粥 (4) 焼きまんじゅう

〔正解 2〕

●解説

日本の年中行事や祭りには、農耕の祭事に由来しているものが数多くあります。行事を通じて、農業の知恵や地域の文化が守られ伝えられてきました。

上州では、近世初頭から養蚕が盛んに行われ、18世紀半ば以降、ほとんどの農民にとって欠くことのできない現金収入となりました。農家では、繭の豊作を願い、正月に繭玉を作ったり、養蚕期には蚕の成長の節目に餅をついたりしました。

1832年（天保3）の『家内年中行事嘉例食制書上』（東国分村）に蚕休みに餅を食した記述があります。

蚕の3眠（フナ休み）または4眠（ニワ休み）に「休み餅」、蚕を簇（まぶし）に入れる上簇の時に「オコアゲ餅」が作られました。

高崎学検定委員会